



第八十二号

柳井市白壁の町並みを  
守る会  
事務局(皿田治)  
TEL:090-1012-4204

第二十回商都柳井

おひなさま巡り開催

残念な「花・香・遊」の中止

会員 岸永啓子

世界中に猛威を振るう新型コロナウイルスの出現で、安全確保の為にあらゆるイベントが中止となりました。今年二十回目を迎えた「おひな様を巡るスタンプラリー」も皆さんのご協力のもと綺麗に飾って頂き、スタートを待つばかりでした。ですが、残念！中止です。

白壁の町並みや麗都路通りに面して飾られたおひな様の前のスタンプを集めて回るこのイベントは、毎年小さいお子さんから年配の方まで大勢の人に楽しんで頂いています。大急ぎで回ってくる小学生、お孫さんとゆつくり来られるおばあちゃん。ご褒美に花の苗をもらって、また来年もねと帰って行かれます。

毎年三月の初め、資料館に会員が集まり、段飾りのおひな様を飾ります。毎年最初の段組みの所でつまずきます。説明書を片手にいつもうろうろ。誰も覚えて

いません。でも一時間後にはお人形さん達は綺麗に並んで座っておいでです。日本は季節に合った行事や美しい花や献立があつて素晴らしい国です。

今年イベント中止で残念でしたが、個々に観光に来られた方々にたくさん見て頂いたと聞きました。嬉しいことです。来年は、例年通りの賑やかなイベントを楽しんで頂きたいと願っております。

「花と香りで遊びましょう」という女性の思いから始まった「花・香・遊」です。町並みを着物を着て歩いて、手作りの食べ物の屋台をはしごしたり、可愛い雑貨の店をのぞいたり。町並みの両側は楽しい事いっぱいです。

白壁の町並みの旧家を会場に、緋毛氈の上に座って扇を的に当てて点数を競う「投扇興」。数種類の香の香りをかぎ分ける「お香遊び」。トランプの神経衰弱のように、美しい絵柄の貝



【写真説明】  
上段：佐川醤油蔵、下段：やない西蔵

殻で遊ぶ「花の貝合わせ」など、タイムスリップしたような遊びが楽しめます。町並みを散策したら、国森家やむろやの園の小田家に立ち寄り、建物や歴史の奥深さに触れてみるのもいいかもしれません。

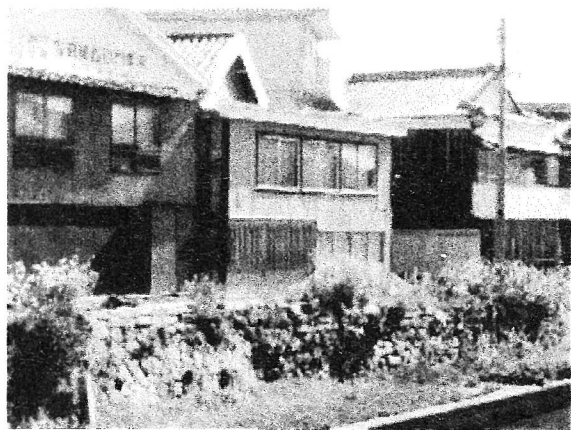
屋外では「生け花」とでは言い尽くせないほどのダイナミックな木と花の作品がみんなを驚かせます。何日も前から準備をされている作家さんには惚れ惚れします。また、柳井川には色とりどりの花を乗せた花筏が浮かべられ、花好きの方々には嬉しいプレゼントです。

女性らしい優しいイベントの「花・香・遊」が来年こそは開催できますように、心より願っております。

# 新庄の花咲かじいさん 白壁に現る?

事務局長 皿田 治

宝来橋からみどり橋にかけての柳井川の北側の細道に春には菜の花、秋にはコスモスの花が咲いているのに気づいたのは五、六年前のことだった。宝来橋のたもとには美しい顔をされた愛宕権現火伏地蔵があり、橋の両側には昔ながらの雁木が残っていて昔ながらの商都柳井の面影を今に伝えている。観光ボランティアのガイドコースに入っていて、都会から来た観光客が菜の花の咲き乱れる川岸に向けて一齐にカメラを向ける場面を何度も見たものだ。「うわーこんな所に菜の花が咲いている。きれいな〜！」



都会ではなかなか町中で見ることができない風景なのだろう。誰が植えているのだろうかとかねがね不思議に思っていたがようやく犯人(失礼)が判明した。新庄にお

住まいになつてゐる末兼靖司さん御年八三歳だ。新庄地区で「花と緑の会」のお世話を受けており、今年で二十一年目とのこと。柳井川で季節の花を植えるようになったきっかけは、五、六年前のプラチナ卓球大会に参加するために柳井駅で降りられた都会からの参加者がきれいに咲いている花を見て発した感嘆の言葉をふと耳にしたからだそう。当時、末兼さんは同好の士とともに柳井駅周辺の花壇に花を植える活動をされていた。それ以来、市内を度々パトロールして周り、雑草の生い茂っている場所をきれいに刈り取り、季節毎に様々な花を植えるボランティア活動をされている。

宝来橋からみどり橋にかけて春には菜の花、秋にはコスモスを中心として、その他の季節はミモザの花、矢車草、すずらん水仙、白妙菊、ピオラ、ペチュニア、花桃などが植えられている。是非一度足を運んで見ていただきたいものだ。

さすがに八十歳を超えてからは夏場の水やりは身体に応えるそうで、現在地元古市



在住の同好の士を緊急応募中のことである。一緒にやってみようと思われ方、是非とも事務局まで名乗りをあげていただきたい。

## 助成金決定のご報告

西京銀行の関連財団に公益財団法人西京文化振興財団があります。この財団は山口県において教育、スポーツ、芸術、文化の各分野において著しい成果をみせ他の模範となるような団体へ資金の補助を通じて地域社会及び教育や文化の振興に努めることを目的として設立されています。この財団より、この度当会に対して助成金十萬円の交付通知がありましたのでご報告いたします。令和二年度の助成金に対して六十二の団体の申請があり、その中から三十五団体が選ばれたとの由。これまでの四十年間に亘る当会の諸活動が評価されたとのことです。お口添えいただきました西京銀行柳井支店様には心より御礼申し上げます。

さて、当会は二〇一九年二月十一日に創立四十周年を迎え、若手幹事の提案により記念小冊子の作成および弘前市より講師をお招きしての講演会の実施等、活動を活性化して来たところです。五十周年に向けて事業を継続して行くためにはどうしても資金的裏付けが必要となります。そこで暫く行なっていない助成金の申請にチャレンジし今回の認定となりました。申請の続きにつきましては高杉政章、元「包贈屋」の河本昌記両会員のご尽力をいただきました。付記して感謝の意を表します。

(事務局)

# 皆さん覚えていますか？ 昔のお店「ちよや」

宝来橋のすぐ近く、当時の奥原写真館の左隣りにそのお菓子屋さんがあった。店名は「ちよや」と云った。現在の「ひらもと食堂」の真裏にあたり今では建物は取り壊され空き地となっている。僕がまだ幼かった頃に随分と流行っていたお店だ。もう半世紀以上も前のことだ。

その頃まだたくさん残っていた駄菓子屋さんとは違い、ガラス製のちゃんとしたショーケースがあつてケーキなども売っていたよな気がする。

「ごめんください。」とガラス戸を開けると「はいはい、何をあげましょうかね、坊や」とおじさんが奥から出て来る。いつもニコニコと優しい笑顔。



時にはおばちゃんや息子の「てるちゃん」だったことも。おそらくおばちゃんの名前が「ちよ」だったのだろうか？おばちゃんも優しく、二人とも小柄でおしど

り夫婦と云うのはこんな夫婦のことを云うんだろうなと子供心に思っていたものだ。当時から大変な繁盛ぶりだ。柳井商工の学生たちがよくラムネなんか飲みながらたむろしていた。今から考えるとご夫婦は大変なビジネスマンだったのだと思う。お店の右手の一角には飲食コーナーもあつて冬

季節には「シャツポ焼き」（現在屋台でよく見る大判焼きと同じもの）や「お好み焼き・焼きそば」夏の季節には「かき氷」を売っていた。家が近かつたので「お好み焼き」や「かき氷」はたまに出前を取っていた記憶がある。お店には若干の日用品もあつたよくな気がする。現在のコンビニのはしりだったと云つていいのかもしれない。

個人商店が商売をやつて行けた戦後の良き時代がますます遠ざかる。便利な時代になつたに違いないが歳をとつたせいにかこの頃やたらと昔のお店が懐かしい。



【ちよやのおじさんとおばちゃん  
本稿の写真は、現在南浜にある奥原写真館の当主、奥原康男氏から提供を受けたもの。お名前を記して謝意を表します。】



# 自壁通りに素敵なお店が できました

店名は竹友（ちくゆう）工房。四十年前から活動している柳井竹細工教室（例会場…星の見える丘工房）の会員二十八名の内から十五名の会員の作品が展示販売されている。場所は重枝醤油店の左隣、琴陽看板店の正面。営業時間水曜日・日曜日の十時～十六時、定休日月曜日、火曜日。希望者には製作体験可。代表者は安原勝實氏八十歳。竹細工を始めたのは六十六歳からで平成二十八年、二十九年には日本伝統工芸展に入選を果たした。

「竹細工の製作を通じて少しでも柳井の観光に役立ちたい」と昨年八月一日に開店。この九か月間に二、二五一人の来店客があつた。竹細工に興味のある方は安原氏の携帯〇九〇―二〇〇八―三九〇六まで。



【竹友工房代表者の安原勝實氏】

# 柳井の地図絵図

岸田稔明

## 第二十五回 陸地測量部二万分一地形図

### 「柳井津」その一(国土地理院蔵)

今回紹介するのは、陸地測量部(国土交通省国土地理院の前身)が作成した『二万分一地形図「柳井津」』である。

『二万分一地形図』は、近代的な測量方法によって全国整備を目指した基本図であり、明治十三(一八八〇)年から大正元(一九一三)年までつくられた。財政難のため、明治二十三(一八九〇)年に基本図の縮尺は、より広い範囲が地図に収まる『五万分一』に変更されたが、『二万分一地形図「柳井津」』は、基本図の縮尺が変更された後の明治二十七(一八九四)年に測図が行われ、明治二十九(一八九六)年に印刷、発行された。



測図が行われたのは、山陽鉄道(現在のJR山陽本線)が開通して柳井津駅(現在の柳井駅)が設置される三年前である。現在の柳井駅周辺には家屋はなく、田が広がっていたことが分かる。白壁の町並みの北側にも田が広がっている。

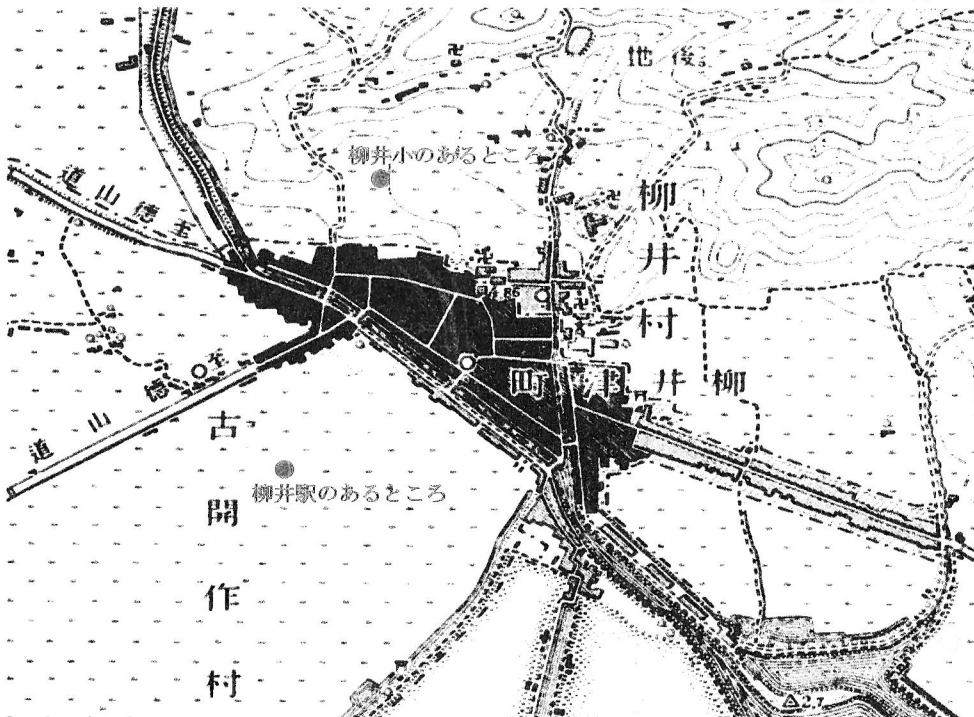
柳井小学校は現在の位置にはない。「柳井村」の「村」の文字の西側(左側)に普慶寺(地図記号「卍」)があるが、その南側に「柳井尋常小学校」があった。学校のあったことを示す「文」の地図記号が小さく表示され、その東隣に裁判所の地図記号△がある。

地図上には「柳井津町」、「柳井村」、「古開作村」の表示があり、町村の境界が一点鎖線で描かれ、それぞれの役場の位置に「○」印が表示されている。当時の柳井津町役場は愛宕(柳井川沿い)、柳井村役場は姫田(姫田川沿い)、古開作村役場は箕越(平生へ行く道路沿い)にあったことが分かる。

柳井津町の範囲内は、塩田を除き、市街地を示す黒色表示となっている。また、古開作村の樋の上や中塚のあたりも黒色表示となっている。なお、明治三十一(一八九八)年の柳井津町は八百五世帯、四千二百八十九人だった。現在(約八百五十人)のおよそ五倍の人口が、限られた区域に住んでいたことになる。

道路は、本町通り(白壁の町並み)をはじめとして、現在の柳井駅へ続く通りの東西にある「木地屋(きじや)小路」、「掛屋(かけや)小路」も描かれている。一方、柳井駅がないため、白壁の町

並みから柳井駅へ続く通りもなく、本橋もない。市街地の西側では、宝来橋から平生方面、田布施方面へ主要道路が通っていたことが分かる。  
柳井川には、今回掲載の範囲内では下流から「三角橋」、「両運橋」、「緑橋」、「宝来橋」の順に架かっていたことが分かる。



【陸地測量部2万分1地形図「柳井津」(国土地理院蔵)】

# 商部柳井の歴史 その十二

松島幸夫

## 柳井津の経済発展(五)

### 豪商になった新興商人

前回は、周辺の村から柳井津町へ移入して商業を始めた人々が、豪商になったケースを紹介しました。無常はこの世のならないで、柳井商人にとっても栄枯盛衰がありました。遅ればせながら参入した商人は、時代の風を感じ取り、新たな需要に慮えて、店を発展させたのです。「むろやの園」の小田善一郎さんからお聞きした具体的な話も紹介しました。

今回は、さらに新興商人の実像を探るために、守田家(現在の国森家)を例にとつて、家の歴史を辿ってみます。



柳井津では明和五(一七六八)年大火が起りました。古市から出火し、西風に煽られて金屋まで燃え広がって、一八〇軒にも及ぶ家屋が焼失したとの記録が残っています。守田家(現国森家)も全焼しました。守田家では早速再建にとりかかります。そうして建造された家屋が、国指定の重要文化財になっています。

る国森家住宅です。再建してから、ちょうど二五〇年にあたることから、国森家の玄関土間に説明パネルが設置されました。そのパネルを参考に記述をします。

#### 一 伊予国から新庄へ

国森家に残された家譜によつて先祖を遡ると、河野通昌に辿り着きます。河野家は、伊予国(愛媛県)風早郡の河野城に本拠を置く強力な地侍集団でした。足利將軍家から応永二(一三九五)年に越智地域を支配する認可状を受けており、刑部大輔の肩書を持っていました。

河野通昌から九代目にあたる人物が守田通広です。河野一族の人々は、いずれも名に「通」の字を付けており、守田家の人物も代々「通」を使いました。守田通広は河野一族内で重きをなしていましたが、ある時本家の河野通直と意見が対立したために、伊予国を去つて周防国に渡り、天文十二(一五四三)年に大内義隆の家臣となりました。

#### 二 新庄での営農

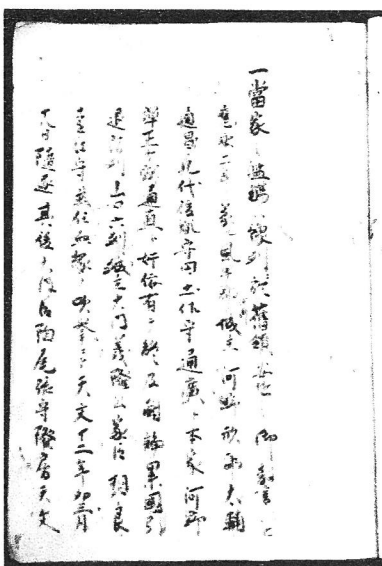
大内義隆の家臣になった守田通広でしたが、陶晴賢が謀反を起こした際に、討ち死をしてしまいます。通広の息子の通久はやむなく柳井の余田村に来て、帰農します。さらに通久の息子である通弘は、隣村の新庄に転居します。柳井湾奥の沼地が稲田に変貌することに伴つての転居です。天下分け目の戦いである関ヶ原の合戦を

経て、吉川広家が岩国城を築くにあたり、守田家は新庄村から多くの人夫を送る役目を務めます。守田家は吉川領で、農民ながら重きをなすことになりました。守田家は、新庄村で稲作に精を出したのです。その傍ら代官所から依頼をされて、干拓事業などの実施にも貢献しています。

#### 三 柳井津町へ移住し商人へ

やがて江戸での経済発展が地方にも影響を与え始めた元禄一一(一六九八)年、才知に長けた守田通広は、柳井津の鍛冶屋町に出て店を開業します。屋号を「室屋」と称して手船商を営みました。その後、通隆が木綿を扱い、さらに英通が菜種油の製造を営むようになって、大財を成して豪商となります。岩国に多額の献金を行つて、苗字帯刀が許可されました。

明治維新の激動期に当主となった重左衛門は、戸籍法が發布された際に、氏名を変更しました。苗字を「守田」から「国森」に改姓したのです。



【国森家の家譜を記した文書】

# 資料館便り

## 『明けない夜はない』

副会長 山近絹代

一昨年は、西日本豪雨や大島大橋の破損事故で来客数が低迷したが、新しい令和の代となり、少なくともこの地方には平穏な日々が戻ってきたと思っていたら、年が明けてから新型コロナウイルスの影響で、イベントの中止が相次ぎ、世の中自粛ムードとなっている。

当館では、例年三月はおひなさま巡りで団体客の入館が一番多いのだが、今年はすべてキャンセルとなり、見事に一台も来なかった。

二月に北海道からのお客様を連れてこられたバスガイドさんが、「三月も来ますのでよろしく」と言って帰られたが、再び会うことはなかった。

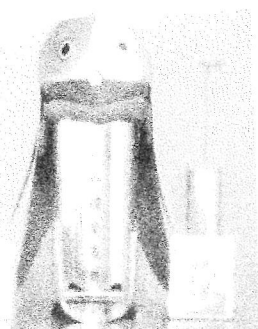
広島からよく来てくださっていたツアー会社の倒産、東京から飛行機で来られた方の「十五%しか乗っていなかった」とか、車で来られた方の「道路がすいていた」等々、柳井に住む者にとっても、対岸の火事では

なくなっており、大変なことが起きているのだと感じざるを得ない。

昨年、折り紙のおひなさまを入館者にプレゼントしたら好評だったので、今年もと思いい折りためていたが、三月は団体客がなく余るくらいであった。

コロナ騒ぎで世の中は大変だが、お鐘金魚さんは相変わらず好調で、今年に入っても幸運の報告が続いている。決して大きいことではないが、願われた方には「小さな幸せがたくさんあった」、「小さな金額だがたびたび宝くじが当たった」、「夢がかなった」、「不幸がなかった」、「ギフト券が当たった」、「病気がよくなった」等々。お鐘金魚さんには引き続き頑張って幸運を与え続けて欲しいものだ。

毎年マロニエの花の咲く春に当会が開催してきた「松島詩子の名曲を歌う会」は、今年で十回目となるので、松島詩子さんのご息をお迎えして開催する予定であったが、時節柄延期することになった。コロナ禍が早く終息して、枯葉散る秋ごろに開催できることを願っている。



そうだ、お鐘金魚さんにお願しよう！

### 平成31年/令和元年度第4四半期及び同年度年間 町並み資料館入館者一覧

	R2/ 1-3	H31/4- R2/3	R2/3末 現在累計
町並み資料館			
入館者数	4,136	23,286	276,875
前年同期比	77.6%	119.8%	
松島記念館			
入館者数	1,258	6,263	103,623
前年同期比	71.7%	108.9%	

#### 【編集後記】

- ・前号発行以来3か月、日本のみならず世界まで、新型コロナウイルスの話題ですっかり占拠されてしまいました。
- ・4月9日朝現在で、世界の感染者数は150万人を超え、死者も9万人に迫る勢い。
- ・日本でも、首都東京をはじめほぼ全都道府県で、感染が広がり、特に4月に入ってから、幾何級数的な増加傾向となっております。このような状況に鑑み、安倍首相もついに重い腰を上げ、4月7日夕刻、非常事態宣言を发出了。対象地域は、とりあえず7都府県となっておりますが、それ以外の住民もおちおちしてはおれません。
- ・わが山口県でも感染者数はこの4、5日で一挙に倍増しました。下関、山口から周南地域に飛び火し、柳井地域も無事に済むとは思えません。話に聞くと、柳井はコロナとは無縁だということで、北海道や首都圏の人が選んで訪れるとか。今の感染経路を考えますと、喜んではおれません。ようやく公共施設の一部が当面1か月間閉鎖されるようで、一安心。
- ・手洗い、うがい、消毒を励行、不要不急の外出を自粛し、3密(密閉、密集、密接)を避ける行動をとって、我が身のみならず他人も守りましょう。(事務局 國森)